

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
 毎月1回1日発行
 定価1部15円
 印刷所 田辺印刷株式会社
 上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
 発行所 社団法人千曲会
 長野県上田市常入信州大学繊維学部内
 振替長野 6243・東京43341
 電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

繊維の新しい分類法と効果 (続き完)

繊維工業試験所長 工学博士 成田 時治

(3)新分類の効果

【A】【B】前月号(2)新分類法で述べた如く分類すると、繊維製品を設計するとき、便利である。例えば、現存しているポリエステルに65；綿35のワイシャツ地の繊維があるが、これは先に説明した耐久、外観、不快の各指数からみて、冬から早春までは人体からの汗の放散を押えた方がよいので、この割合でよいが、春から初夏へかけては、人体からの汗の水蒸気の放散が、今少し容易でないと不快指数が大きくなる。これを修正するためには、水分に敏感な pure hydrophilic の木綿の割合を増加した方がよい。するとポリエステル繊維の割合が、これだけ少くなり、シワの回復力が低下する。これを救うためには、プラスチック繊維であるポリエステルの回復力を増加しなければならない。そのためには、ポリエステル繊維の太さを増せばよい。勿論紡績には問題がある。しかしこれは、これが紡績できるように、機械部分を修正すればよい。これでシワ回復力は大きくなるから、外観指数は保たれる。耐久指数が心配であれば、ポリエステル繊維の長さを増せば、これも確保できる。夏になれば、更に汗の放散能力を欲求されるので、更に pure-hydrophilic fiber である木綿の割合を増加する必要がある。これを増加すれば先に述べた理論から、プラスチック繊維であるポリエステル繊維を太くして、長くする必要がある。となればもはや紡績機では、修正がきかなくなる。又通気性も大きい方がよくなるから、同じ pure-hydrophilic fiber の麻を混紡するとよい。麻は水分にも敏感であり、剛直でもあるので、糸密度の少ない繊維も可能である。この原理を応用すれば、耐久外観、不快の各指数を、季節にあわせて設計製作できる。この考え方は、上記の繊維性能必要指数と新分類法を組合せたものであって、合理的な布地は容易に設計でき、製作も可能であり、消費者も使ってみて、不満はなくなる。問題は経済性だけである。

羊毛とポリエステル混紡の例について考えてみても、羊毛は Semi plastic fiber ポリエステルは、Pure plastic fiber ですから、ポリエステルの割合を増やせば、この回復はよくなり外観指数も上り、強さの点でも、ポリエステルは、強靱であるから、耐久指数は上る。併し羊毛は semi hydrophilic fiber ポリエステルは、non-hydrophilic fiber であるから、冬季は不快指数は大きくなるが、初夏から夏にかけては、不快指数が著しく大きくなり、不適当になる。ついては、これを修正するためには pure-hydrophilic fiber のセルロース繊維を混用しなければ、合理的でない。現在の混紡率は、アメリカのデュボン社で研究結論したものであるが、吾国では冬季より利用できない。この不合理性および修正の方法は、上記の新分類法によれば、直ちに判断できる。又私は防衛庁の被服の委員会の席上で着想した、亜麻とテロン(35:65)ですれば、耐久指数もよく、外観指数もよく、不快指数も小さい夏服地ができる。ということも理解できる。

綿布の樹脂加工したリシャツ地が、広く用いられているがこれはポリエステル65、綿35のワイシャツ地に対抗するため

に考え出されたものである。併し綿繊維は non-plastic-fiber であり、これに熱硬化性の樹脂加工をしても plastic fiber の物性は発生していない。従って樹脂加工の結果、シワは多少発生し難くなるが、シワが自然に戻るという性能はない。ついてはプラスチック繊維のポリエステル繊維の生産が進み、上記のような考え方で、冬季に適したワイシャツブラウス地が出来てくれば、綿布の樹脂加工は後退を余儀なくせられる。今盛んなのは、上記の如きワイシャツ地の発明が遅れているからである。

もう一つ実例を挙げて説明しておく、メリヤスというものは、天然4種の繊維、いわば plastic fiber の無かった時代に、考え出された組織である。従って組織の力を生ずる本体は、non-plastic fiber を用いるのが合理的である。織物組織では発生しない弾性組織を非プラスチック繊維から作るというところに意義がある。となれば、今日盛んになってきているアリル繊維のセーター、カーディガンの類は、合理的である。何んとなればアクリルと繊維(湿式紡糸)は非プラスチック繊維であるからである。ナイロンがメリヤス社会の王座を占めているのは、ナイロンが細くて、強いということにある。この細くて強いがために、トリコット編機のスピードも著しく向上したものを設計製作できたのである。これまでは、これ程の繊維が無かったので、ナイロンの独壇場であったわけである。従って細くて強く、plastic 性の低い pure-plastic fiber が出来れば、ナイロンは、それだけ後退を余儀なくせられる。併し今のところない。薄いメリヤス地というものは、これまでも要求されてきたが、絹でも人絹でも成功していない。尚ナイロンが pure plastic fiber であったために、ウーリー化にも成功し、filament 間に空隙を作ることも成功し、その利用領域を著しく増大したことも、上記の分類からは説明可能である。

又、以上の plastic 性と hydrophilic 性を組合せて新製品を作るとなれば耐久、外観、不快の各指数と組合せて、色々の製品が設計できる。方法は混紡も、交捻、交織、織物組織の組合せ、メリヤスの交編など、現在する天然繊維の製品を解析して、参考にすれば、次々新製品の発明は可能である。【C】次に固体性分類の効果について説明すると、熔融紡糸のものは、無空隙で pure-solid であるが、湿式紡糸のレーヨンアクリル繊維などは、70~80%の間隙がある。木綿の如きは精練漂白すると、脱脂綿の繊維の如くなり、9%の間隙率になる。吾々は衣料その他としてこの状態のものを使っている。綿糸のアンダーシャツの如きは、そのために軽いのである。即ちわれわれは、綿繊維フェブリールを開放して、90%の間隙を持つたものを利用している。となれば木綿繊維の比重1.55というものは、実際の利用状態のものでなく、単なる物質比重である。繊維製品のための比重は、この10分の1である。従って設計にあたっては、0.155の比重を用いなければならない。かくの如く考えると、現在の比重の値は製品設計の資料にならないものが多い。これを修正する必要がある。これは繊維物性研究者の仕事である。又、ウーリーナイロンの如

きも、この考え方からみると、繊維工業用比重を小さくするためのものである。又レーヨン、絹の如く、繊維工業用比重（レーヨンは0.3、アクリルは0.25、綿は0.16）の如きものをウーリー化可能に改質すれば、更にその比重は小さくなり、極めて軽いメリヤス、織布ができることになる。

尚ここで説明しておきたいことは、繊維内の間隙の方向である。木綿、レーヨン、アクリンなどは、繊維の長さの方向に間隙が配在している。然るに絹、アセテート、オーロン、乾式ビニロンなどの乾式紡糸繊維は、溶剤の放出が、繊維軸に対して直角方向に近くなる。その結果、両者の光沢の差がはっきりと違ったものになる。これは外観指数を支配する重大な問題である。またこの間隙は染色に際しての有力な基礎になり、間隙の多いものは、染料の侵入が容易であり、間隙の界面（界面）へ染色の吸着を助ける。特にナフトール染料の如き強い染料の利用は、間隙によって支配せられる。かかる理論からば、固体性の強い熔融紡糸の繊維は、染料侵入の間隙が極めて小さく、かつ少ないので、染色は困難である。染色の化学的座の問題は、この物理構造の次の問題である。かくの如き意味において湿式紡糸の繊維は、染色は容易である。問題は、その繊維を形成している物質の透明度である。セルロースは無色透明度が高く、合成繊維はこれが低いために、鮮やかな色にみえない。乾式紡糸の場合は上記の如き構造であるから、染色性は前二者の間にある。化合物と物理構造のよい天然絹繊維は、極めてよい光沢とともに、この構造が染色性にも、大きく貢献している。尚間隙の方向によって表面の摩擦指数にも影響し、手触りに変化をなす。

又この固体構造即ち間隙性は、その内部への空気含有量を意味し、繊維製品の特性へもその効果を及ぼすことになる。特に保溫性というものが、繊維質よりも、空気含有量によって支配せられることをみても解る。のみならず、肌ざわりにも大きい違いを来すことも論議されている。

〔D〕染色性(Dyeability)分類については、染色性とは何かという問題に当面向した。化学構造、物理構造からみて、染色の化学構造、物理構造によって支配せられる繊維との結合性について論ずれば、これは各繊維別の染色機構について説明することになり、分類の意味がなくなる。そこで私は、染色の幅というものを考え出した。幅が広いというのは、淡色—濃色まで鮮やかな色に染まるというものをさすことにする。こういうことにすると、各繊維は、染色特性として分類できる。又現在の合成繊維も批判できる。染まればよいというものではなく、必要に応じた堅牢度を持ち且つ美しく染まる、ということが大切である。このスケールで測定すると、絹が最も染色性が大きいことになり、木綿の如きは濃色には染まるが、淡色の方は美しく染まるどいえない。絹と比較すれば低い（淡色の染色は）これを高くするためには、フィブリル間隙を縮小して、絹の間隙に近づけなければならない。このためにシルケット加工をする。併しこの目的からみれば、シルケット加工と染色との関係について更に研究の要がある。と同時に精練漂白についても研究の要がある。これが成功すれば、絹だけが染まるフランス調の色が木綿にも染まるようになる。湿式紡糸のものは、染料を多量に吸着内蔵することになるので、濃色は美しく染まるけれども、淡色は界面が狭いので、美しくみえるようにならない。熔融紡糸のものはナイロン以外のものは、染料の侵入間隙が少く、特にポリピロレン、ポリエチレン、塩化ビニル、塩化ビュリデンの各繊維は分子構造が簡単で分子間隙を作り難いので、染料の物理的侵入を妨げている。勿論化学構造も、染料を誘導する水の分子も受付けず、染色は不可能に近い。併しナイロンは、化合物中に未重合乃至低重合物が1%内外あるので、これが溶

出して、染料の侵入孔を作る。その上化学構造がよいので、染色性を大きく助けている。ポリエステルは重合物中にベンゼン環を有しているので、高分子鎖の挙動（紡糸の際の）を考えると、間隙のできる公算が大きい。従って、染色に際して高圧を利用して、高温で施行すると、染料侵入を著しく助ける。

染色性の幅の広さ狭さは、製品の外観指数を大きく左右することは、言うまでもない。そこで今日の繊維をこのスケールで測定してみると、問題の多いものが多い。いわゆる最近の衣生活に要求される美しい淡色の染まるものは極めて少い。フルーツカラー、フラワーカラー、というのは、生物の生成した色であるが、何れも淡色に美しい色である。合成繊維の製造も、ここに焦点をあらしめることは、将来にとって極めて大切である。

尚ここで羊毛の如き、中色、淡色の染まらない繊維は、暗い色よりそまらぬので、美しい色の染色出来る繊維を混紡交織すると、染色の幅を広くすることが出来る。この話は友人江川実太郎氏から聞いたのであろう。ここで私は、アメリカのフレダエルフイアの繊維大学を訪ねた時のことを思い出した。この大学は、学生の教育は工業大学と同じ基礎学、専門学を教えているが、卒業製作は、自らデザインし、そのデザインに最も近い結果が得られるような材料（繊維）の選定、織物の構造などを考えて設計し、これを自ら作らせている。テキスタイルデザイナーとして、アメリカの代表的存在である卒業生が多い。これは染色性即ち染色の広さを含み入れている研究を自ら実行せしめるものである。吾国のテキスタイルデザイナーもかくありたいと思う。と同時に染色研究も、デザイナー活動と手を組んで進みたいものである。

④新分類法批判

繊維物性として、今日までと研究された項目と、上記新分類法に含まれる項目との間には、思想的な差があり、一朝にしては理解できないと思う。特に繊維物性の中心である強伸度を無視した如き分類になっている。これについては、この分類で最も悩んだところである。併し強硬、伸度というものは、今日では自由に来る状態にある。天然繊維、化学繊維レーヨンの類は固定して、分類配列は可能であるが、合成繊維は、延伸によって強度と伸度を自由に变化することが出来る。これが同時に弾性にも関係してくる。いわば粘弾性と相関関係を持って動くものである。特に本論が衣料を中心繊維利用を考える時には、今日の繊維は、何れも充分の強度を持っていて、特に論議の要はない位である。更に強度というものを再考すれば、強度というものは、衣料の耐久性の尺度になる如く考えられているが、今日迄のところでは、この値で、衣料の耐久力を予想することはできなかった。その実例は、羊毛よりも、スフの強度の方が著しく大きいにもかかわらず、実際の耐久力は、羊毛製品の方が著しく大きいからである。かくの如き見地から、耐久性はむしろ、弾性、粘弾性、の順数と考えた方が合理的と考えたのである。即ち完成された繊維製品が、常に新しい条件に堪えるためには、弾性回復、粘弾性回復力の大きいものの方が高性能であるからである。そこでプラスチック性というものの概念の中へ粘弾性、熱可塑性を含ませて考えた方が繊維専門家としては取扱いが便利であると考えたからである。

又ヤング率、剛性の如き項目についても考える必要があったかも知れないが、衣服材料としての繊維が、ヤング率を問題にして論ぜられたことは殆んどない。のみならず木綿の如きはヤング率は大きいとせられているが、吾々の使用している衣服を構成している綿繊維（精練、漂白、染色加工）は、これまで吾々が参考にした測定のものではない、と考えられ

る。このことは、固体構造のところでも説明したが、ファイバールール間隙の開放された状態のものは、機械力学で測定された値と異なる筈である。考えるとすれば固体構造の一部として考えればよいのである。剛性なども同様であって、プラスチックのイメージの中で考えた方がよい。ということは、今日の物性測定の結果が、繊維製品設計の資料として充分なものであり、修正しなければ分類しても、しよりのないものである。といたいところである。

水分率についても、実際に衣服として利用する場合は、むしろ水分の吸収、放散の速度や量が問題であって、公定水分率というものは商品学的意味の方が強い。20°C 65% だけというのも、物性比較の条件として必要なだけであって、季節の1点の値に過ぎない。となれば、各季節即ち大気状態の水分率を測定し、これを利用すべきであるが、これが衣生活に如何ほどの影響があるか、ということになると理解に苦しむとなれば、人体の表面から汗を放散するという生活状態にマッチし、体温を一定に保持するための水分透過性を考えた方が、むしろ役立つのである。不快指数の大部分が、この値によって支配せられることは改めて考えるべきである。又水を吸収する結果の膨潤現象も、染色や洗濯には関係があるが衣料用の設計には直接関係はない。ということは染色などは必要のための色を染めるための科学技巧であって、製品を作るためのものであるから、製品の設計には、別の分類である染色分類の方をみて論ずればよい。

耐熱耐日光とかいうものも、論議はされているが plastic 分類の細目として論ずればよい程度である。

光沢の問題が繊維製品にはあるので光学的の研究が盛んであるが、この結果から、製品の光沢を予想したことはない。については繊維の状態での光学的測定が、製品設計に際して、繊維選定の資料として利用できるようにしたいものである。これよりも、今の時点では、光沢を左右する紡糸構造の方が有効である。即ち固体構造中の間隙の有様を論じた方が、よいわけである。繊維の硬さについても、固体構成の原物質として無間隙の状態の硬さが解れば、間隙量の関係から、繊維として利用する場合の硬さは予想出来る。についてはこの問題も、固体分類の中で考えた方が便利である。

この外色々の物性が測定もされ考えられもするけれども、それらは何れも、耐久、外観、不快の各指数の、何れも関係があり、今日の衣服革新の時代に、何が必要か、ということを考えて、効率の高いものをやった方がよいわけであり、これらが物性の多くは、上記分類に関係して考えれば、製品設計に際して便利である。ということは今日の物性研究の項目や深さは、再検討の要がある。勿論ここにいる物性は、染色加工を説明するための現象も物性として含むと考へてのことであり、対薬品性についても考への中に加えるべきだと考へている。

結論的にいえば、繊維の研究も、科学化が進み学問化の傾向が強いので、繊維工学の基礎学としての、物性項目及び内容の再検討をして、研究の実際の効率の上るようにしたい。理も繊維製品の開発を目的とし物性の由と深さを持つ研究をするようにしたい。

絹織物の品質におよぼす養蚕製糸の諸条件に関する研究

高 木 春 郎

わが国の生糸は戦前主に靴下用に使用されこのため菌検定や生糸検査はこの線に沿って格付され、養蚕製糸の技術も自然この方向に改良されてきた。用途が全面的に変わった現在根本的な検討を加えることは極めて重要と考えられる。本研究は、この目的をもって、昭和31年頃より鐘淵蚕糸KK沓掛久雄氏の御協力により開始し現在も継続中のものである。

昭和33年および34年には、数多くの蚕品種の繭を同一条件で飼育生産し、繭糸の諸性質（繊維、練減率、抱合、酸部分加水分解残渣率等）を試験し、年を追って何らかの性質において特徴のあるものに逐次しぼり、37年には6品種を飼育した。35年以後においては、これらより羽二重を製織し、諸性質（練減 bending length, リング引拵抵抗、摩擦係数、しわ回復、圧縮弾性等）を試験した。また35年以後では品種別の他、旧来より生糸あるいは、絹織物に特徴あると云われているわが国各地方（5～6地方）において同一品種の繭を飼育し、繭糸の諸性質を試験すると共に羽二重を製織しその性質を試験した。37年度にはまた繭層の外部および内層部より生糸をつくり羽二重を製織した。

以上の各試験により、いろいろ確実あるいは不確実な結果や傾向が得られているが、また総括的に報告できる段階に達していない。

37年度に得られた結果中興味あると思われる2・3を記すと次のとおりである。繭糸濃度は品種により大小のあることは勿論であるが、33～37年5ヶ年間の結果をみると、かなり変動し、品種による順序が逆になっているものが少ない。しかし繭層練減率は、品種により大きな差があるが、変化少なく、年による順序の変動はほとんどみられなかった。フィブロインを酸で部分加水分解したときの残渣率も品種による多

少がかなりはっきりしており、年による順序の変動は少なかった。

産地により、同一品種でも、繭層練減率はかなりはっきりした多少の傾向がみられた。加水分解残渣率でもこの傾向がうかがえる。絹織物の諸性質に対し、繭糸あるいは生糸の諸性質がどのようにどの程度影響するかについては、さらに検討を加えなければはっきりしたことは云えない。

本研究の遂行に当り、鐘淵蚕糸KK沓掛氏の全面的な御協力の外、蚕糸試験場絹糸部、長野県繊維工業試験場、篠之井菌検定所、共同精練染色工業KKの御協力を賜った。研究助成金を戴いた上田繊維科学振興会に対すると共に感謝の意を表す。
(筆者工学博士繊維機械学研究室)

総合建設工事一式

土木建築アスファルト舗装 設計施工
上下水道衛生設備工事

長野県上田市大字常入682

株式会社 宮 下 組

TEL (上三) (2)0271.2071.4034

財団法人上田繊維科学振興会の発足

信州大学繊維学部創立50周年記念事業は昭和35年10月20日盛大に挙行されたことはまだ記憶に新しいことであるが、祝賀事業のうち将来にのこすべき大事業として研究の奨励および助成を行なうとともにさらに学術を通じ広く社会と大学との接触をあつせんし、文化の向上と繊維産業の発展に寄与することを目的として上田繊維科学振興会が設立された。

長野県および上田市を初め、業界繊維会社等293社、繊維学部教職員、千曲会員、在学生延2,712名、上田市自治会員269名計3,276名の協賛を得て設立された信州大学繊維学部50周年記念事業協賛会からこの事業に対する寄付金3,000,000円を基本金として生ずる利子によって事業を運営し、昭和36年度より任意団体とし発足した。

この間主な事業は昭和36年度において繊維関連学会討論会講演会開催に補助すること6回、昭和37年度において研究助成3件、講演会開催3回に補助をなし着々その成果を挙げている。そこでこのさい一層その基礎を固め、公益の増進に寄与するため任意団体振興会を発展的に解散しそのいつさいの事業を継承し、基本財産の電信電話債券3,400,000円より生ずる果実によって運営する、財団法人上田繊維科学振興会を設立することを計画し、昨秋末発起人会によって研究され本県長野県に設立許可申請中であった。7月15日付設立許可され、7月29日諸般の登記を完了した。かねて所望であった財団法人上田繊維科学振興会がここに目度く発足することになった。運営する事業量は放て大きいものではないが盛りあがる研究と成果に対し事業目的を充実遂行し将来の飛躍的發展隆昌を期待するものである。

財団法人上田繊維科学振興会寄付行為

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この財団法人は、繊維に関する学術の振興と繊維産業の発展に寄与することを目的とする。

(名 称)

第2条 この財団法人は、財団法人上田繊維科学振興会(以下「本会」という。)という。

(事 務 所)

第3条 本会の事務所は、長野県上田市常入500番地に置く。(事業)

第4条 本会は第1条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- (1) 優秀な学術研究、発明を行なっている個人および団体に対し助成金を交付すること。
- (2) 顕著な功績のあった研究論文、著書または発明考案のあったものを表彰すること。
- (3) 学術研究と産業界との連絡および協力の斡旋をすること。
- (4) 繊維科学振興に関する知識の普及をはかるため、講演会、講習会等を開催すること。
- (5) 前各号のほか繊維科学振興に関する必要な事業を実施すること。

第2章 資産および会計

(資 産)

第5条 本会の資産は基本財産および運用財産とする。(基本財産)

第6条 基本財産は、次の各号に掲げるところによる。

- (1) 設立当初寄付された別紙財産目録記載の財産
- (2) 設立後基本財産として指定して寄付された財産

(3) 理事会で基本財産に繰り入れることを決議した財産

2. 基本財産は処分し、または担保に供することができないただし、やむを得ない理由があるときは、理事および評議員総数の3分の2以上の同意を経、かつ主務官庁の認可を受けてその一部を処分し、または担保に供することができる(運用財産)

第7条 運用財産は、次の各号に掲げるところによる。

- (1) 基本財産から生ずる果実
 - (2) 助成金、寄付金、その他収入
- (財産の管理)

第8条 本会の資産は理事長が管理する。

2. 基本財産のうち、現金は、理事会の決議によって確実な有価証券を購入するか、又は確実な預金として保管する。(事業年度)

第9条 本会の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(経 費)

第10条 本会の経費は、運用財産をもってこれに充てる。

(予 算)

第11条 本会の毎年度収支予算は年度開始前に理事会の決議を経、かつ評議員会の承認を得なければならぬ。ただし緊急を要するときは、理事長は理事会の決議を経て予算の追加または更正をなすことができる。

2. 前項ただし書の規定により予算の追加または更正をしたときは、理事長は、これを次回の評議員会に提出し、その承認を求めなければならない。

(剰余金の処分)

第12条 年度末において剰余金が生じたときは、理事会の決議を経てその全部を翌年度に繰り越すものとする。ただし理事会の決議により剰余金の一部もしくは全部を基本財産に繰り入することができる。

(決 算)

第13条 本会の収支決算は、年度終了後2ヶ月以内に当該年度における次の書類を作成し、監事の監査に付し、評議員会の承認を求めなければならない。

- 1. 事業報告書
- 2. 収支決算書
- 3. 財産目録

第3章 役員、研究助成委員会および職員

(役 員)

第14条 本会に次の役員をおく。

- (1) 理 事 長 1名
- (2) 副理事長 1名
- (3) 常務理事 5名
- (4) 理 事 15名以内(理事長1名、副理事長1名、常務理事5名を含む)
- (5) 評 議 員 30名以内
- (6) 監 事 3名

(役員 的 任 免)

第15条 理事長、副理事長および常務理事は理事の互選とする。

2. 理事および監事は、評議員会において選任し、または解任する。

3. 評議員は、理事会の推薦により理事長が委嘱する。

(役員 的 職 務)

第16条 理事長は、本会を統轄し、本会を代表する。

2. 副理事長は、理事長を輔佐し理事長事故あるときはその職務を代行する。

3. 常務理事は、理事長を輔佐し、会務を処理する。

- 4, 理事は、理事会を組織し、本会の業務を執行する。
- 5, 評議員は、評議員会を組織し、重要事項を審議する。
- 6, 監事は民法第59条に規定する職務を行なう。

(役員任期)

第17条 役員任期は2年とする。ただし、補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。

- 2, 役員は再任することができる。
- 3, 役員は任期満了後、後任者が就任するまで引き続きその職務を行なうものとする。

(役員解任)

第18条 役員が本会の役員としてふさわしくない行為があった場合、または特別の事情のある場合には、その任期中であっても理事長は理事会の決議によりこれを解任することができる。

(顧問賛助員)

第19条 本会に顧問および賛助員若干名をおくことができる。2, 顧問および賛助員は、理事会の推薦により理事長が委嘱する。

- 3, 顧問および賛助員は、重要な事項について理事長の諮問に応ずるほか、会務について意見を述べることができる。

(研究助成委員会)

第20条 助成金の交付について重要事項を調査審議するため理事長の諮問機関として研究助成委員会を置く。

- 2, 研究助成委員会は理事会の推薦により、理事長が委嘱する。
- 3, 委員の定数および任務は、理事会において決定する。

(職員)

第21条 本会に書記その他職員を置き、理事長が任免する。2, 職員は、理事長の定めた職務に従事する。

第4章 会 議

(会議の種類)

第22条 本会の会議は、理事会および評議員会の2種とする。(理事会)

第23条 理事会は必要に応じ理事長が招集し、理事長が議長となる。

- 2, 理事会は、この寄付行為に特別の定めがあるもののほか、次の事項を議決する。
 - (1) 事業報告
 - (2) 収支決算
 - (3) 評議員会に提出すべき議案
 - (4) その他理事長が付議した事項

(評議員会)

第24条 評議員会は毎年5月および必要に応じ理事長が招集

し理事長が議長となる。

2, 評議委員会は、この寄付行為に特別の定めがあるもののほか、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画の承認
- (2) その他理事長が付議した事項

(会議の議事) 第25条 理事会および評議員会は、理事または評議員の2分の1以上出席しなければそれぞれ会議を開くことができない。ただし再度招集しても2分の1に達しないときは、この限りでない。

2, 前項の会議の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第5章 寄付行為の変更

第26条 この寄付行為は、理事会および評議員会の議決を経かつ主務官庁の認可を得て変更することができる。

2, 前項の決議は理事および評議員のおのおの4分の3以上の出席を要し、3分の2以上の同意を得なければならない

第6章 解散および清算

(解散)

第27条 本会は、民法第68条第1項第2号から4号までに規定する解散事由により解散する場合のほか、理事会および評議員会の決議により、主務官庁の許可を得て解散することができる。

2, 前項の決議については第26条第2項の規定を準用する。(清算)

第28条 清算人は、理事会において選任する。(残余財産)

第29条 本会の解散の際における残余財産は評議員会の決議を経、かつ主務官庁の許可を得て本会の設立趣旨、目的にそってその帰属をきめる。

第7章 附 則

(施行細則)

第30条 この寄付行為の施行について必要な細則は、理事会の決議により、理事長が定める。

(設立当初の役員)

第31条 この会の設立当初の理事および監事は次に掲げる者とする。


理事	柳沢 延房	理事	北条 舒正	理事	高木 春郎
"	田口 亮平	"	中村 六男	"	野口新太郎
"	会田 源作	"	飯島南海夫	"	荻原 清治
"	川合 久午	"	香山 清和	"	笠原 正巳
"	小泉 清明	"	呉 祐吉	"	関 博夫
監事	小泉 所	監事	清水 運策	監事	竹内 善吾

伊藤武男先生退職記念会募金

1,000円	小泉 清明 (繊維学部)
700円	竹田 寛 (繊維学部)
500円	野口新太郎 (繊維学部) 山口定次郎 (繊維学部)
	田口 亮平 (") 小泉 所 (")
	中村 六男 (") 長島 栄一 (")
	古平 福紀 (")
300円	小林 尚一 (繊維学部) 町田 博 (繊維学部)
	武田 晃 (") 田中 一行 (")
	武井 隆三 (") 関 博夫 (")
	田中 茂光 (") 一之瀬匡典 (")
	東川 静夫 (") 柳沢 幸雄 (")
	桜井 壺雄 (") 小林 勝 (")
200円	押金 健吾 (繊維学部)

為替のご用は
はやくて たしかな
富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野3523が一番ご便利です

上田市原町
皆様の  富士銀行上田支店

支 会 だ よ り

とみ会の集い

小 山 清

大正13年卒業同級会(言うなれば13会)を今年は群馬県で催すことになった。開催は11月9、10日である。約一ヶ月前から旅館の方に交渉して連休の10、11日にしたかったが、観光ブームの為あのマンモス旅館のひがき旅館連日一杯で、10、11が取れなくて9、10日とした。会員続編5名、製糸9名(中津信一郎君5月に死亡)養蚕12名、計27名に通知を出して出席者は7名、夫々々家庭の事情等止むを得ないが、人員の上では淋しかった。然し会合は賑やかであった。

第一回赤城山、第二回東京(船橋ヘルスセンター)第三回上田(50周年記念式典)第四回松本(美ヶ原)第五回水上(群馬)いつも出席する新振りが決って居ることは大いに嬉しい。どうか次回は神奈川、東京の幹事が主催でやりますが多勢御参加を今から願っています。

9日の水上駅に降りると小山が大きな荷物を持って待って居り、石井、水城の両君がキョロキョロして宿引き替りの幹事小山を見付けている風であった、小山の方から声をかけて小山の車に乗って三人連れ立って今宵の宿ひがき旅館へと向った。先客の聖聖の招待で来た訳の訳らぬ老夫婦がキョトンとして我等の割り当てられた10畳と6畳と3畳に鎮座ましまして居る。この二人を移動さすのにやや暫く時間が係った。

温泉にしたって居る内に後継部隊の牧野君が山形から、この上越線廻りでやってくる。清水、田角の両君が東京から来る、浜君は娘さんの産後の日立ちが悪いとかで、急に来られなくなったことは残念であった。6時正式の宴会の始る前大いに家庭の事情に付いて語り合った。長男の嫁の選定のいきさつなど至って神妙な世帯話しなど、流石が年の功か、至ってくそまじめな話しをした。留守家庭を護る老妻(失礼)を涙ぐましくする語り草善良なる夫振りを物語る。テープレコーダーがあったら『このおやじこんな良い処があるかな』と想はせる節もあり、之れでは来年もクラス会に『行っていらっしやい』と言って山の内一豊の妻をつくりの、ぼんと旅費が出る、いや行き過ぎた訂正、ごきげんで送り出されること必定である。

予定通り6時半より小宴会が始った。宴たけなはの頃を見て小山幹事の日本舞踊『奴さん』『かっぱれ』をレコードに合せての踊りは小手しらべ、式の前座、なみ入る芸者連をあっと言わせた。其あと本仕度で浅草の雷門から賑々仕入れて

来た浴衣とおかめの面をつけて『おてもやん』を踊ったには一同亜然としてしまった。暫く感嘆の言葉が断へなかつた、其証拠には踊っている内、あれは誰れた芸者かなんて言って居た者がいた。年令60に至ってり踊を覚えたのだから無理もない。然し本人は道を楽しむ、道に落ちるでなく健康と娯楽の為めとあつて至って平気である。

小山誠に依ればゴルフ場廻りより経費のかからぬ柔軟体操で大いに60才児に普及したいものと気持を挙げて居る。

地元群馬の岩根君、関口君が欠席した事を残念に想って居る。

翌朝は朝酒、朝酒をやり、再会を期して午前10時水上とも別れ解散した。想えば愉快なクラス会であった。

武本本治君の死をいたむ

野 口 活 也

8月6日現地の講演から帰った私を、待っていたものは武本の赴報であった。

昭栄製糸元重役の武本君(蚕13回)は死んだ。

昭和38年8月4日を最後に。

武本よ。何故死んだ。一体何病で死んだのだ。一片の通知から何ものも伺い知ることができない。10年程前に、結核で昌平橋近くの病院にいたのを見舞ったことがあったが、その時は全快した筈だ。再発したにしても、今時結核で死ぬとも思われぬ。

武本は死んだ。

私と彼との交友は、上田の頃はそれ程密接なものではなかつた。然し年を経るに従って、次第に濃くなって来た。

武本の思い出は尽きない。

入学の時、いき年寄り臭いガッチリした男が、修己寮の2階の5号室に入ってきた。たしか私より2年の年長だった筈だ。どこかの私大で足踏みをしていらした。その頃は中学を出ても徴兵のため、予備校に長く在籍することができなかった。九州弁丸出しで、よく窓の敷居に立ち上って、奇声を発する男であった私は別に嫌でもなかつたが、特に親しみを覚えたわけではなかつた。それが夏休みの前の旅行の頃、寮の状差しにあった私宛の封書を、高々と挙げて人にみせびらかし乍ら、製糸実習室の飛び石のところで私に「オゴレオゴレ」といって渡した。私の姉が女子大の軽井沢の三泉寮からよこしたもので、私の恋人とでも感じたらしい。そんなことから口をきくようになったが、まだどうも親しくする程

ではなかつた。

武本のよいところは、正義感に強いことであつた。つまりぬ講義をする先生があつて、これをクラスでボイコットする相談が出たとき、第一に止め役に出たのは武本であつた。然し面倒な勉強を好んでやったわけではなかつた。卒業後も技術的なことに力を入れたかどうかかわからない。松野正一さんが、私にこんなことをいっことがあつた「武本君は全く心臓だよ。蚕品種のことはちつともわからぬのに、会議の席で堂々と方向違いのことをしりべっている。全くひぎひぎするよ。まあ心臓は可愛いところがあるよ。人柄たね」と。武本は重役としては万点だが、技術のことは第二義務的に与えていたのだろうか。クラスで最も早く重役になったのは彼であつた。

離れていても、年がたつに従って、次第に親しさを増して来た。特に武本が、福島の新種製造所長の矢島君が発病した時に、現職を続けることのできるようにした、重役として示した友情の厚さは、武本の人間性を如実に示すものであつた私は自分の教え子を3名もこの製造所に採用してもらつたので、その実情に精しい。

学校の50周年式の時には、クラスのメンバーの集りが悪くて、武本・宮城・野沢・私の4名であつたが、昔なつかしい「ウナ膳で」で呑んだ思い出は尽きない。最後に会つたのは、この1月蚕糸試験場の50周年記念式の日であつた。夕晴せまる講堂で、出席者の大半が帰つたのにまだ講演は続けられていた。武本と私の隣り近くの席は全く空席であつたが、前から2列目の席に、2人だけが普んで、シーンと聞き入った。若い頃なら「こんな話つまらない。出てお茶でも呑もうぎ」という武本であつたが、何故かその時は面白くもないのに最後まで聞き入った。

卒業の時から、10年毎に私達は、家族ぐるみのアルバムを作っている。私はいつもその世話人であつたが、武本はいつの時も早目に原板を送ってよこした。協力の強い男であつた。いまそのアルバムを出してみると、最近のものは心なしか影が淡い。でも並んで入っているお子さん達は、何れもみんな秀才揃いで、立派に育つた幸福な家族である。

武本よ。何故死んだまだ死ぬにはチヤ一早かつたぞ。

本 会 記 事

学 内 理 事 会 開 催

8月24日千曲会館において学内理事会を開催した。昨秋厚生施設予定地として購入した北佐久郡御代田町楓ヶ丘 663 坪に寮を施設することについては別荘地分譲契約にもとづいて5月迄に施設することになっていたが都合により延び延びとなっていたが都合により延び延びとなっていた。町開発室から施設のさい促をうけ又地元安川寛氏(蚕12)よりも山口理事を通じ他の別荘地は建設が概ね完了しているの千曲会厚生施設も促進するよう申し入れがあったので、その建設について協議した。①規模は12.5坪とすること。建築様式については町田理事から青写真の図面による詳細説明があり、材料は学部改新に伴い処理された旧寮蚕室の一部古材を市内業者より買入主材とすること。②建設費については主として千曲会施設拡充費を充当すること。③建設位置については図上で略決定したが更に近く理事が現地を視察して決定すること。④その他建設後の建物管理の委託等について協議した。

千曲会厚生施設予定地の清掃

千曲会厚生施設予定地北佐久郡御代田町(西磐井沢)楓ヶ丘の663坪はカラ松梢、桜が茂っているが今迄一度も手入れがなかったので8月4日早朝より町田理事田中豊美君、富山昌臣君、白井要範が向いてそうやく(清掃)をした。動力除草機も持参して雑木雑草をかりとり小さな松林もすっきり奇麗になった。

文部省奨励科学研究費の交付された会員

大学などの研究機関に所属しない小学、中学、高校などの教員や県教委の研究員対称の本年度文部省の奨励科学研究費の助成交付は7月25日付法定された長野県在住会員は次のとおりである。

研究課題、花色発現に関する遺伝生化学的研究、松代高校寺田良(農3)、光条件の異なる環境で生育した作物の葉の蒸散作用、篠ノ井市立塩崎中学山崎銀彦(蚕36)

財団法人上田繊維科学振興会役員会開催

8月23日第1会議室で振興会役員会が開催された。協議決定事項は①柳沢理事長より財団法人上田繊維科学振興会が7月15日付設立認可通知が来たこと。7月29日法人登記は完了した旨の報告があった。②財団法人振興会評議員選定については寄付行為による評議員定員は30名以内となっているので15名との意見もあったが結局次の18名の各氏に決定した。

山口定次郎、長島榮一、小林尚一、久間秀彦、隅田隆太郎、坂口育三、後藤春雄、一志淑夫、羽鳥不二夫、宮城博、山崎勇、母袋忠右エ門、土屋茂一郎、湯浅文雄、橋詰英雄、江野村一雄、小林三郎、田島信雄

③振興会表彰者推薦の件、千曲理事長が推薦することになっているので更に学内理事会を開いて協議すること。

④その他研究助成表彰規程については次回理事会で協議すること。

谷内利男技師来会

ブラジル、サンパウロ州ブラ拓製糸会社技師谷内利男氏(学系1)は谷口章重役と共に機械購入のため空路7年振りに帰国し、7月17日母校本会にも来会した。一環作業として織物に技術者をと学部の中込み、明春卒業予定の紡織工学科学生堀田助次郎君の採用を決定した。

谷内氏は7月末海路渡伯した。

ヨーロッパ便り

本会副理事長、東京支会長の小林運美氏から次のヨーロッパ便りが寄せられた。持帰日本ボーイ、スカウト130名を連れてユングフラウに登りました。今年は8月16日に初雪でした。チウリッヒ郊外パリスレンの町に全員家庭に分宿スパラシイ歓迎を受けました。日本の子供は奥にスパラシイとは同地(農村)の人々の心からの言葉でした。ギリシャのアテネに開かれた世界ジャシボリー終了後3週間のヨーロッパバス旅行も終点のロンドンで終り北極経路帰国の予定です。各地で日本産業の発展をほめられながら。

8月29日 ロンドンにて 小林運美

母 校 ニ ュ ー ス

学生後援会定期総会開催

繊維機械学科並びに高分子研究所の建物完成、繊維化学工業科の新設学科の増設等のため延びていた学生後援会定期総会は8月2日第1会議室で催された。午前中は学内見学、午後2時まで各学科別懇談会並協議会があって、2時半から総会となった。議題は①昭和37年度決算について。②昭和38年度予算についてそれぞれ承認があり、③役員改選について次の各氏に決定、会長香山順三、副会長井沢喜三、常任理事大屋正尚、理事後藤正市、宮沢茂樹、松井辰雄、湯沢禎作、渡辺又治、清水憲雄、小宮山実、監事横田辰雄、滝沢和喜夫、磯村国夫の各氏が選任され本会、学部の発展隆盛のためご足労願うことになった。

第1回高分子材料に関する自由討論会開催

7月28日学部繊維機械学科研究室において佐藤良泰教授世話人として、高分子材料に関する自由討論会が開催された。この会のねらいは近時公式な学会や研究会は多いが、充分な討論時間もなく、あるいは運営が機械的であるなどの不都合の点が多い現状である。そこで30名前後の少人数のプライベートな費用持寄りの研究会でアットホームな雰囲気の中で問題を掘り下げる催しを試みた。実施への踏切が遅く6月中であったが30余名の研究者が集まり活発な討論が実施出来た。なお29日30日は田沢温泉、旧鹿沢温泉に会場をうつして行われ盛会であった。

繊維化学工学科研究室建設工事始まる

昭和38年度から新設の繊維化学工学科の研究室建設工事については8月9日指定競争入札により株式会社宮下組に決定した。建築規模は三階鉄筋コンクリート建延1005.3平方メートルで、その位置は旧本館跡(火災焼失教室跡)竣功予定月日は昭和39年3月20日である。現在地下工事もブルドーザーにより整地が始まっている。9月4日地鎮祭執行の予定である。

火 災 復 興 資 金 募 集

募 金 要 項

募 金 目 標 額 5,800,000円
復 興 資 金 として 5,000,000円
母 校 へ 提 供 する 金 額
拠 出 額 1口 金1,000円 1口以上
申 込 期 限 昭和38年12月末
千 曲 会 員 各 位

母校火災復興資金募集実行委員長

巢 山 喜 吉

社団法人千曲会理事長

荻 原 清 治

母校火災復興資金申込者氏名(○印は申込と同時に完納)

福 島 支 会 2,000円 ○中沢薫(蚕14) ○田中四郎(系19)
東 京 支 会 1,000円 ○北島和加子(学化7)
越 佐 支 会 1,000円 ○窪田 巖(蚕19)
上 小 支 会 1,000円 ○茅野清三郎(系15) ○柳沢孝雄(学蚕2)
北 信 支 会 2,000円 ○今井甲子男(化4)
愛 知 支 会 2,000円 ○金井賢太郎(学紡1)
近 畿 支 会 1,000円 ○黒沢一義(学化7) ○長井理(学化8)
兵 庫 支 会 1,000円 ○浦野里美(学系9)
小 計 11名 15,000円
合 計 1,424名 3,234,600円

会 員 動 静

山浦 道雄 学化11 山 陽 帝人(株)開発研究所(岩国市今津)

箱山 宗一 学紡11 山 陽 全上 全上

那須野昭文 化 7 山 陽 倉敷レイヨン(株)岡山工場加工研究室(岡山市海岸海通り1の3)

門田 勇 紡 15 近 畿 大日本紡績(株)羊毛部特織課(大阪市東区安土町2の30)(住)大阪府堺市浜寺分津町144の98

内藤 康三 蚕 25 愛 知 県立豊丘高等学校(豊橋市岩田町)(住)豊橋市高師町西沢70の6

野田 太郎 糸 16 千 葉 東菱光コンクリート工業KK東京事業所(東京都千代田区丸の内3の2新東京ビル)(住)千葉県松戸市中矢切 496

岡本 功 学化 6 東 京 静岡加工紙工業KK(東京都中央区日本橋本町1の12)(住)東京都中央区日本橋久松町20新光紙業工業KK内

横沢 正雄 蚕 36 三 重 亀山製糸KK本社(三重県亀山市東御幸町)

土屋 恒敏 学化 1 福 井 明成商会北陸出張所(福井市豊島中町28)

滝沢 孝正 学化 5 静 岡 太陽紙工(株)静岡県掛川市19番

安達 豊子 養 5 北海道 農林省函館統計調査事務所(函館市鶴岡町8)

小林 幸雄 学蚕10 千 葉 東洋綿花KK東京支社企画部(東京都千代田区大手町1丁目2)千葉県市登戸町5の128

一之瀬賢太郎 農 4 近 畿 東京特殊電線販売株式会社(大阪市都島区東野田町9の31)

小林 正 学紡 2 東 京 東京特殊電線株式会社(東京都新宿区西大久保2の307)

井上 晴普 紡 19 京 滋 日本繊維工業KK京都工場(京都市南区吉祥院石原長田町13)

笠井 忠光 学糸 2 静 岡 東京セロファン紙(株)浜松工場(浜松市早出町1の500)(住)浜松市広沢町 363

池田 絃二 学化11 近 畿 花王石鹼KK 和歌山市藪の丁

北島和加子 学化 7 東 京 花王石鹼KK 双葉寮

小山 恵久 学紡11 宮 崎 タキロン化学KK東京営業所(東京都中央区八重洲3の1八重洲北口ビル)

関口 貞雄 学化 2 大 阪 旭化成KK ベンベルグ工場研究課(宮崎県延岡市)宮崎県延岡市村新小路6の3旭化成第2恒安寮

北野 三郎 紡 14 愛 知 大阪府吹田市高野台1の2府営高野台住宅B12の103号

岩岡 辰雄 蚕 36 茨 城 日清紡績KK名古屋工場

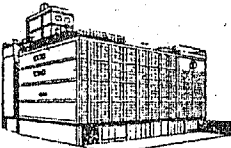
堀内 良孝 蚕 38 茨 城 名古屋市南区豊田町徳徳西部2.923

竹内、方榮 紡 9 愛 知 神楽生糸株式会社石岡工場

小林 英夫 学紡 3 京 滋 同上(石岡市大字石岡 7.884の1)

東海洋毛工業KK(名古屋市守山区大永寺)

東洋レーヨン紡績研究所(滋賀県大津氏岡山3丁目)(住)京都市東山区山科御陵中内町38の13



皆様の百貨店

上田・中央 **ほてい**


編集室より

夏季休暇も終り学園は後期開始、活気をおびて来た。50周年記念事業として発足して来た上田繊維科学振興会は7月15日財団法人上田繊維科学振興会として認可された。今後内容の充実と発展を期待するものである。

本会厚生施設寮の建設もきまり西郷井沢の楓ヶ丘に格構の寮建築が出来、来夏はご利用いただける予定です。

小林運美副理事長から、ご多忙中欧州だよりをロンドンから寄せられたことを謝し、会員各位のご活躍をお祈りします。

編集委員 小林尚一、香山清和、大屋正尚、古平福紀
窪田 衛、大工原建、小山 定、滝沢達夫
小林 勝、白井要範



オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社長 増 島 芳 美

信州鹿教湯温泉

日観連会員 交通公社協定 **文 珠 荘**

TEL (西内) 35